

今週の主な News

1. 全国まちづくり会議 2025 の開催企画
2. J's カフェの開催案内
3. JANPIA 外国人支援事業 最終報告会の開催
4. 23 年度 JANPIA 沖縄事業 最終報告会の開催
5. 24 年度 JANPIA 沖縄事業 実行団体の公募開始

■全国まちづくり会議 2025 の開催企画

全国まちづくり会議は 2005 年 8 月に、全国の町づくり衆 17 名による全国都市再生まちづくり会議を主催者とする「全国都市再生まちづくり会議」を開催することでスタートしました。その後第4回の北海道大会から日本都市計画家協会の単独主催となり、本年度の「全国まちづくり会議 2025 in 埼玉」が第20回となります。

1 月 14 日に全国まちづくり会議 2025 のキックオフミーティングが開催され、約 30 名の実行委員等が参加し、今年の全まのアウトラインに関する意見交換がなされた。またこの席で全国まちづくり会議 2025 の実行委員長として鈴木俊治理事(芝浦工業大学教授)が選任されました。現在の段階で本年度の全ま開催に関する方針は概ね以下の通りです。

<開催概要>

日時:2025 年 10 月 18 日(土)~19 日(日)

場所: 芝浦工業大学大宮キャンパス

さいたま市見沼区深作 307 番地

(JR 東大宮駅よりスクールバス5分、徒歩 20 分)

テーマ: 素晴らしい日常への気づきと感謝

~さいたまから全国へ~

■J's カフェの開催案内

コミュニティの事や地域の賑わいづくりなどなど、まちづくりに興味がある人が気軽に集まり、ゲストの話を聞きながらビールを片手に、ゆるやかに交流する場「J's cafe」です。

JSURP 本部事務所などにおいて、四半期に1回程度のサイクルで、リアルな場でまちづくりに関する様々なテーマを題材に対話と懇親を重ねていきます。

今回のトークテーマは『祭り×まちづくり』!

トークゲストは行政職員、民間コンサルを経て現在、デベロッパーに勤務する傍ら、各地のお祭りへの参加・支援の取組など、マルチにご活躍されている今場雅規さんです。

<開催概要>

日時:2025 年 2 月 20 日(木) 18:30~20:00

トークテーマ: 祭り×まちづくり

トークゲスト: 今場雅規(日本工営)

場所: JSURP 本部

千代田区神田小川町 3-28-5 axle 御茶ノ水 306 号室

費用: 1,000 円(ワンドリンク付き、現地払い)

申込方法: 申込みフォームから申し込みをお願いします。

<https://forms.gle/Rd8yv85u5vchweN9A>

※当日参加も OK です!

■JANPIA 外国人支援事業 最終報告会の開催

JSURPが、(公財)公害地域再生センター(あおぞら財団)]と共同で取り組んできた、休眠預金外国活用事業「外国人と共に暮らし支え合う地域社会の形成事業3」の最終報告会・交流会が2月9日(日)に開催されました。

会場のシティラボ東京には約50名が参加し、12時30分から17時までの4時間30分の長時間にわたって熱心な議論が交わされました。第一部では伴走支援している11の実行団体から成果報告がなされ、これを受けて第二部では3つのグループに分かれ、①支援する人たちの社会参加の促進、②団体の活動の継続性の確保、③地域社会の変革の促進をテーマにワークショップが行われ、第三部ではこのワークショップの各グループでの検討をもとにディスカッションが行われました。

<開催概要>

日時:2025 年 2 月 9 日(日) 12:30~17:00

場所: 中央区京橋 シティラボ東京

プログラム

オープニング

第一部: 取り組み経過の報告

分科会1

- 重大な課題を抱えた方のセーフティネットの確保

分科会2

- 通学や就労の支援を通じた主体的な社会参加の促進

分科会3

- 安心して暮らせる住まいや拠点、地域づくり

第二部: ワークショップ

分科会1、分科会2、分科会3

第三部: 分科会の報告とディスカッション

分科会1、分科会2、分科会3

今後の取り組みの整理



■23 年度 JANPIA 沖縄事業 最終報告会の開催

JSURP が(一社)南西地域産業活性化センター(NIAC)、(公財)沖縄県労働者福祉基金協会(沖縄労福協)と協働して実施している、休眠預金活用事業「2023 年度沖縄版 誰もが支え合い・働く社会の実現事業 子育て世帯等が生活困窮・就労困難な状況から抜け出す自立支援プロジェクト(略称子育て世帯等自立支援プロジェクト)」の成果報告会が、2 月 11 日(火・祝)に那覇市で開催されました。当日は、主催者(前記 3 団体)と実行団体 6 団体の関係者に加え、沖縄県内の行政・行政関連団体・大学関係・企業関係者等総勢 100 名近い方々が参加されました。



★開催概要

報告会は全体で3時間、前半の第一部では本事業の活動結果について実行 6 団体及び NIAC より報告が行われました。後半の第二部では、この報告を受け、実行団体の代表者及び学識者等による「沖縄において今後求められる支援のあり方とは」をテーマとしたシンポジウムが行われました。

シンポジウムは団体代表(6 名)・有識者(3 名)＋コーディネーターの 10 名で行われましたが、うち団体代表全員と有識者 2 名の 8 名が女性、会場参加者も過半を女性が占めるという、このテーマならではのシンポジウム風景でした。

<開催概要>

日時:2025 年 2 月 11 日(火曜・休日)14:00～17:00

場所:那覇市 ホテルサンパレス球陽館

プログラム

第1部:活動報告等

- 1 開会挨拶
- 2 事業の概要及び諸事業の報告
- 3 実行団体による活動報告

第2部:シンポジウム

- 3 シンポジウム
沖縄版誰もが支え合い・働く社会の実現に向けて
- 4 講評:審査委員長



★実行 6 団体の活動報告

今回の休眠預金活用事業における実行団体は6、いずれも女性が代表等を担い、生活困窮・就労困難な状況にある子育て世帯等の方々の支援事業を行なっている団体です。各団体の活動報告の一端をご紹介します。

<野村真麻:(株)island works>

生活困窮母子世帯(8 名)を対象に縫製技術指導による技術習得を行い、就労までをフォローし、学習一就労に繋がるキャリアパスの仕組みづくりに取り組んでいます。



<ゴージャス理恵:女性を元気にする会>

生活困窮世帯への宅食支援を強化拡大し、1か月約 40 世帯×9 か月＝約 360 世帯に輪を広げ、緊急を要するお母さんや女性に対し新たにシェルター(4 部屋)を確保して支援提供する事で自立に向けた後押しが出来き、負の連鎖を断ち切る事が出来た。

<山内優子:(一社)おきなわ子ども未来ネットワーク>

典型的な自動車社会である沖縄では自立のための就労の際に運転免許が必須要件であり、若年ママ運転免許取得事業を実施、6 名のシングルママが免許を取得。同時に、若年母子自立支援事業として、拠点を開設(賃貸)し「一体型自立支援施設モデル事業実施(入所型)」を 9 月に開所、居住、食事、保育、職業訓練、就労支援等の一体的な支援を実施。

<山下千裕:(一社)くじら寺子屋>

生活困窮者がエネルギー補給ができる、精神的安らぎを得る場として、「よんなールーム」を開設。一人になる・休む、美容やマッサージ、PC 教室などスキル習得の場など多様な利用に対応しています。

<秋吉晴子:しんぐるまざーず・ふぉーらむ沖縄>

孤立しがちなシングルマザーの方々の人となつがる居場所づくり、コミュニティ形成を通じて就労への「マインドセット」と「スキルアップ」ができる環境づくりを進めました。

<本仮屋まさみ:(一社)タコライスラバーズ>

貧困世帯等を対象とした食サービス「みらいチケット」の拡大を図りつつ、具体的な食提供の場「三食堂」を開設、多機能な居場所としても活用しつつ、同時に就労支援プログラムを実施しています。

■24 年度 JANPIA 沖縄事業 実行団体の公募開始

2023 年度事業に引き続き、2024 年度版として 2024 年 2 月～2025 年 3 月を事業期間とする「沖縄版誰もが支え合い・働く社会の実現事業2」を実施します。24 年度は「生活困窮安心できる「住まい」を確保する取り組み」と「就労困難安定的な「生活への道筋」をつくる取り組み」の二つをテーマとした事業実施を行います。

当面、2 月 13 日に実行団体の公募説明会を開始しており、5 月上旬までに実行団体を確定して具体の事業に入することを想定しています。